

効果の上がる勉強方法を確立するための基礎知識

—「手順を踏む」ということ—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

期末試験の結果はどうだったですか。100点満点に限りなく近いよい成績をとることのできた方がこの開倫塾の塾生の中には数多く出たのではないかと思います。ただ、残念なことに十分な成績がとれなかった方もいると思います。

学校の勉強ができる・できない、学校のテストで100点がとれる・とれない、このことに、頭がよいかよくないとかは全く関係がありません。単に、勉強をよくやったか、よくやらなかったかだけです。よく勉強をやればよい点数がとれるし、よくやらなければよい点がとれない。よい点がとれば、学校での評価が高まり、勉強ができると言われ、よい点がとれなければ、学校での成績が上がらず、勉強ができると言われない。ただ、それだけのことであります。

そうは言っても、なかなか100点がとれ、学校での評価が高まり、勉強ができると言われるのは難しいと思われまます。学生であるなら、おそらく誰もが、テストで100点を取り、学校での成績を上げ、勉強ができると言われたいのではないかと思いますので、今回は、テストで100点がとれ、勉強ができると言われるにはどうしたらよいかを考えてみたいと思います。

*「他人から何と思われようが全く気にしない」「勉強ができるなどと思われたくもない」と考える人も、「自分の教わったことや現在学ばなければならないことを完全に身につけ、テストという形はとらなくても、学んだことを100%自分のものとして使いこなすことがテストで100点満点をとることと同じだ」と考えてもらえば、これから私がのべることも参考にならないわけではないと思いますので、是非、最後までお読み下さい。あなたの人生の上で必ずためになります。

2. 「手順を踏む」ということ

ものごとをなしとげるときに何が一番大切かといえ、**「手順を踏む」ということ**であります。

ある特定の**一つのものごと**をなしとげるときには、そのこと特有の踏まなければならない**「手順」というもの**があります。

自分でなしとげたいことがある場合にそれを達成するために、試行錯誤をくり返し、グルグル同じところを回することは、「根性」や「精神」を鍛えるためには必要である、という人もいます。また、一度失敗したら「同じ誤ち」をしないように気をつけてもう一回挑戦をし、ちがう失敗をしたら、これまた「同じ誤ち」をしないようにして、更にもう一度やればいいのだ、「人生は失敗の連続」「失敗し続けてはじめて人間の弱味がわかり、人間くさくなり、人間性が増すものだ」「だから人生において失敗は必要なのだ」などと「失敗すること」をたたえる人さえいます。

しかし、私は、そうは思いません。どのようなことでも、人間が考えたことであるならば、必ずそこには一定の「やり方」つまり「踏むべき手順」というものがあると考えます。このようになれば、つまりこのような手順を踏めば、必ずこのようになるという「やり方」「手順」というものが存在すると確信をいたします。

サッカーのチームに入り、ゴール・キーパーとしての役割を果たすにはそれなりの「やり方」「踏むべき手順」があります。「県大会で優勝」するための「やり方」「手順」というものがあります。

私自身は、中学生のころ陸上部には入っていませんでしたが、毎年陸上の100 m走と800 mリレーで地区大会に出て入賞し、県大会に行っていました。入っていた柔道部では、地区大会の団体戦で優勝し、県大会でも優勝、個人戦でも県大会で準優勝させて頂いた思い出がありますので地区大会は地区大会のレベルに応じた、県大会は県大会のレベルに応じた勝つための「練習」があることはよく知っています。県大会終了後、何人かの選手が選ばれて、合宿をしながら県の体育館で栃木県警察本部の機動隊の柔道部の人と練習をさせて頂きましたが、非常に皆さん強くておどろきました。しばらくして東京オリンピックの猪熊選手が足利市の造士館という柔道場に来たとき稽古をつけてもらいましたが、襟をもった瞬間に片手で遠くのほうに投げ飛ばされおどろいた覚えがあります。団体に出場している県警機動隊の方々には団体レベルの、オリンピックで金メダルをとるような選手にはオリンピックの優勝のレベルの「練習方法」「やり方」「踏むべき手順」というものがあるようです。

たいてい、毎年地区大会で勝つチームには勝つチームなりの名コーチや名監督の先生がいらっしゃる、県大会でいつも優勝決定戦近くには、県大会なりの名コーチ、名監督の先生がいらっしゃる覚えがあります。生徒は毎年変わっても、いつも地区大会や県大会では優勝を争う中に入っている先生がおられました。

私が中学時代に柔道を教えて頂いたのは、椎名弘先生という先生です。その先生は教える中学校で、地区大会はもとより県大会で優勝かそれに準ずるような成績を生徒にとらせてきました。足利市立山辺中学校、第三中学校、西中学校が何年か前まで順番のように柔道が強かったのは、椎名先生のお陰と私は思っております。

もし、我々中学生が、自分で練習方法を考え、自分たちの考えた練習方法で練習をしていたら、失敗の連続で、県大会はもとより、地区大会の一回戦でも勝てなかったと思います。

なぜ、椎名先生の教えを受けた中学校の柔道部は県大会で優勝を争うまでに毎年なったか、中学校を卒業したあと、先生のお宅を訪問してお話を聞いてからわかりました。先生は大学時代、宇都宮大学の柔道部のキャプテンをなさるほど柔道が強かったこと、中学の先生になられてから人一倍、柔道の専門家として柔道のコーチの勉強をなされ、文部省から派遣されイギリスにまでお出かけになられたとのことです。当時の中学生である我々は全くそのようなことは知らずにいましたが、何と我々は、日本はもとより世界でも最高レベルの柔道のコーチを受けていたのでした。たとえ相手は中学生であっても「練習の方法」「やり方」「踏むべき手順」というものは、日本柔道界の今までの歴史と近代体育理論を踏まえた「本格的」なものでありました。

3. どこで踏むべき手順を教わるか

私の場合、たまたま「柔道」では足利市立山辺中学という中学校で椎名弘先生という素晴らしい先生に出会いましたが、問題は、どこにいけば、自分の目標をかなえる、踏むべき手順を教えてくれる先生に出会えるかということです。目標が学力の向上や・一定の職業に就くことであればよくアンテナをはりめぐらして、どこに行けばよいのかを考える必要があります。友達同士で話し合うことも大事ですが、「踏むべき手順は何か」「どこに行けばそれを教われるのか」などを話し合うレベルにまではなかなかいかないと考えます。先輩もよほどの人は別ですが年が単に何歳か上である位の理由では、「踏むべき手順」について本格的な解答が出る可能性は低いと考えます。学校や塾の先生、ものごとを広い立場・視野からたえず見ている人を捜し出し、その人から話をお聴きする以外にありません。どこに行けば、自分の夢がかなうのか、たまには真剣に考えてみて下さい。